

建礼門院(平徳子)

けんれいもんいん

頼長内覧停止1155 =

保元の乱・・1156 = 1歳 :

高倉天皇の中宮。壇ノ浦で子の安徳天皇を抱いて入水、救出され、平氏滅亡を背負って生きた。

平清盛の次女に生まれる。母は平時子(二位尼)。名は徳子。

平治の乱・・1159 = 4歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1164 = 9歳 :

清盛太政大臣1167 = 12歳 :

平徳子入内・1171 = 16歳 : 従三位に叙され、_後白河法皇の猶子として入内、高倉天皇の女御となり、

・ ・ ・ ・ ・ 1172 = 17歳 : _中宮に冊立。

・ ・ ・ ・ ・ 1173 = 18歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1178 = 23歳 : _六波羅で言仁親王を生み、

源氏一斉蜂起1180 = 25歳 : *親王即位、安徳天皇となる。

平清盛没・・1181 = 26歳 : *高倉上皇の死で、院号を与えられて建礼門院と称する。この間、諸国源氏の蜂起により内乱が勃発。

・ ・ ・ ・ ・ 1182 = 27歳 :

後鳥羽天皇・1183 = 28歳 : 源義仲の入京に際し、安徳天皇・平氏一門とともに都を落ち西海に赴く。源義仲を破った源範頼・義経軍は平氏討滅のために西下し、一の谷で源平両軍が衝突した。結果は平氏軍の大敗に終り、平氏の主だった部将の約半数が失われた。このとき屋島に退いた平氏のもとへ、京から和平案がもたらされ、建礼門院と安徳天皇はともに京へ帰る可能性もあったが、交渉が決裂して実現しなかった。頼朝の建て直しをはかる平氏は、屋島のほか長門彦島にも根拠地を置き、瀬戸内の制海権を掌握したが、

平氏滅亡・・1185 = 30歳 : *源義経の急襲によって屋島が陥落し、長門壇ノ浦で一族滅亡のおり、天皇とともに入水したが、渡部党の源五馬允番・源兵衛尉呢父子に助けられ、一門の生虜とともに京へ帰った。吉田の律師実憲の坊に入り、落飾して法名を真如覚と称した。"文治の大地震"で野川の御所が大破したこともあって、都を離れた寂光院へ移る。以後は一門の人々の菩提を弔う日々を送る。源頼朝は平宗盛の旧領摂津国真井・島屋両荘を彼女に贈って生活の資とした。

九条兼実摂政1186 = 31歳 : 女院のもとへ後白河法皇が訪れ、衝撃を受けるとともに、昔を語って互いに涙したという。また、仕えてくれていた右京大夫も訪れて、彼女が平資盛と死別した悲しみを詠んだ歌も聞いている。

奥州藤原滅亡1189 = 34歳 : 配流を赦された前少僧都全真が来訪。

宋西臨濟宗始1191 = 36歳 :

鎌倉幕府始・1192 = 37歳 :

出家後の建礼門院の心境を表したものとして、「平家物語」に「かんこどり花橘のか(香)をとめて鳴くは昔の人やこひしき」という歌が載せられている。

源頼朝没・・1199 = 44歳 :

梶原景時征討1200 = 45歳 :

そののち建礼門院は都に戻り法性寺辺に住んだともいわれるが定かでない。

執権政治始・1203 = 48歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1209 = 54歳 :

北条頼朝確立1213 = 58歳 : _没した。

寂光院裏山の大原西陵に葬られた。生年は「女院記」による。「平家物語」では1157年。